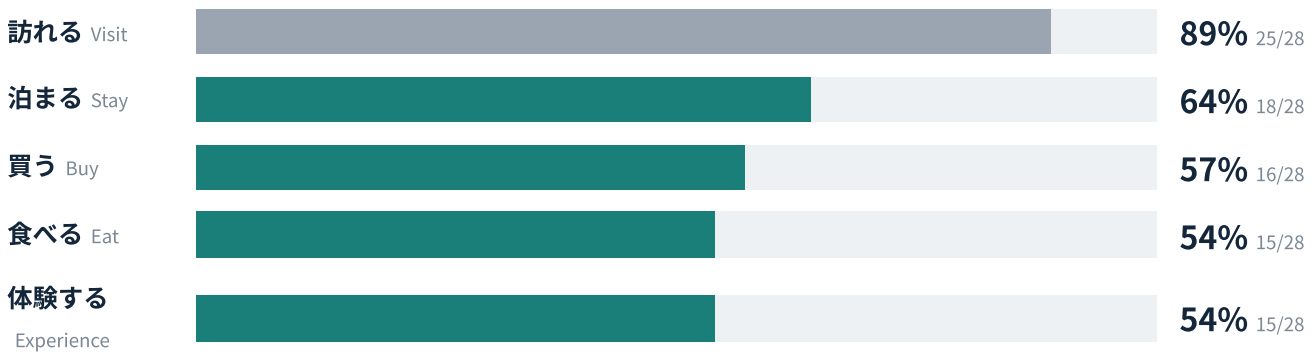


生成AIは訪日客の「行き先」は推薦する。 でも「泊まる・食べる・買う」の推薦は、まだ薄い。

旅行者はいま、検索の代わりに ChatGPT などの AI に「どこに泊まる？何を食べる？」と直接聞き、AI は答えの中で宿・店・商品を推薦します。56project は、観光庁「地方における高付加価値なインバウンド観光地づくり」の 14 モデル観光地について、訪日客を想定した英語の質問を同じ条件で投げ、AI がどう推薦しているかを観測しました。



STRONG 判定の割合（カテゴリ別、各 28 問）



緑の 4 分野は、2025 年の訪日消費額 9 兆 4,549 億円のうち約 9 割が使われる分野です。

主な発見

1. 「行き先」と「お金を使う場所」に差がある。「訪れる」は 89% が STRONG。「泊まる・食べる・買う・体験する」は 54～64% にとどまった。
2. 同じモデル観光地でも、10 問中 2～10 問と大きな差。伊勢志摩及び周辺地域は 10 問すべてが STRONG。この差は地域の魅力の優劣を示すものではなく、AI が参照できる情報の量や構造が一因である可能性がある。
3. 消費の大きい県を含む地域でも、STRONG が少ない例がある。一方で、消費も STRONG も大きい地域もあり、一律の傾向ではない。

STRONG＝回答ごとに AI モデル（OpenAI gpt-5.4+Web 検索）が返した構造化判定で、具体的な推薦が複数あり次の行動へ移りやすいとされたもの。店名の出現率や市場シェア、来訪者数・売上を示すものではありません。各質問 1 回の観測（2026-10-06）。

14 モデル観光地の比較 | STRONG は 10 問中 2～10 問

地域ごとに同じ 10 問を同じ文面で質問し、STRONG と判定された数を比較

モデル観光地	STRONG の数	2 問とも STRONG のカテゴリ
伊勢志摩及び周辺地域	10/10	V S E B X
松本・高山	9/10	V S E B X
紀伊山地及び周辺地域	9/10	V S E B X
沖縄・奄美	9/10	V S E B X
北陸	8/10	V S E B X
山形	8/10	V S E B X
せとうち	7/10	V S E B X
鳥取・島根	6/10	V S E B X
東北海道	5/10	V S E B X
那須及び周辺地域	5/10	V S E B X
佐渡・新潟	5/10	V S E B X
富士山麓	4/10	V S E B X
八幡平及び周辺地域	2/10	V S E B X
鹿児島・阿蘇・雲仙	2/10	V S E B X

V＝訪れる／S＝泊まる／E＝食べる／B＝買う／X＝体験する。緑は、そのカテゴリの 2 問がともに STRONG。灰色は 1 問以下。

「訪れる」はほぼ全地域で STRONG。差がつくのは「泊まる・食べる・買う・体験する」です。STRONG が少ないことは「魅力が弱い」という評価ではなく、来年度にどこを確かめ、整えるべきかの目安です。

STRONG＝回答ごとに AI モデル（OpenAI gpt-5.4＋Web 検索）が返した構造化判定で、具体的な推薦が複数あり次の行動へ移りやすいとされたもの。店名の出現率や市場シェア、来訪者数・売上を示すものではありません。各質問 1 回の観測（2026-10-06）。

2027 年度予算への示唆

「もっと知ってもらおう」だけでなく、「お金を使う場所」を AI が答えられる状態へ

- 1 認知施策と、情報整備を分けて予算化する**
「訪れる」は多くの地域ですでに推薦されている。宿・店・商品・体験の名前と予約先を、AI が参照できる一次情報として整える余地がある。
- 2 自地域の「どのカテゴリが薄いか」を確かめる**
地域や市場に合わせた質問で観測し、推薦先と引用元を確認する。どの情報を直せばよいかが具体的になる。
- 3 同じ質問で測り直し、効果を説明できるようにする**
施策の前後を同じ条件で比べる。AI の推薦の変化（AI 指標）と、流入・予約・来店・消費（事業指標）は分けて追う。

56project ができること

無料 AI スナップショット 英語 5 問 × 1 つの AI。A4 1 枚の結果と 15 分の説明。毎月の受付数に限りあり。	施設 15 万円／地域 30 万円（税別） スポット診断 英語 20 問 × ChatGPT・Gemini、競合比較、推薦先・引用元の分析、改善の優先順位。	3 か月 地域 AI 可視性 PoC 観測 → 情報整備 → 再観測 → 効果検証。次年度予算の判断材料にする。
---	--	--

41 ページの完全版を無料ダウンロード

メールアドレスのご登録でお受け取りいただけます

14 地域の詳細、回答の実例、実消費データとの照合、地域・店舗別の打ち手、国内外の事例

japan-inbound-ai.56projectai.com

本診断・本レポートは AI 上の推薦状況を一定条件で観測したもので、検索需要・来訪者数・売上を直接示すものではありません。改善や成果の増加は保証しません。出典：56project / JPI DATA 独自観測（2026-10-06）、観光庁「インバウンド消費動向調査 2025 年暦年（確報）」。合同会社 56project（東京都江東区）<http://56projectai.com/>